H22健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会　フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・概ね計画通りにプロジェクトは進捗していますが、木材生産実績についてはモデル団地外（国有林等）に偏重する傾向が見られます。林政改革の方向性を鑑み、モデル団地内での事業実践、その他民有林でのプロジェクトの成果発揮に一層務めて下さい。

◆成果に関するアドバイス

・定性間伐にも関わらず残存木には不良木（曲がり等）が散見されるため、施業方針が徹底されていない印象を受けます。森林の将来像や、間伐の方針を一層明確にして下さい。

◆効率性に関するアドバイス

・現在の作業システムでは、一旦、径級に関係なく出材木を中間土場へ輸送してから仕分け作業を行っていますが、さらなる効率化を図るため、ハーベスタによる造材作業の際、同時に径級別に仕分けるよう心がけて下さい。
・効率的な施業実施のため、安易にスイッチバックを設けることなくカーブ設置に取り組むとともに、林業機械等の円滑な走行を可能とする循環路網の整備を心がけて下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・表層土壌を評価した結果、この施業地ではA層が十分に存在しているとともに適度な湿度も確認されました。また林床には適度に光が入っており下層植生も豊かであることから、現状の土壌状態が適当と思われます。こうした土壌保全への配慮が木材生産活動にとってもプラスになることを認識して、今後も森林づくりに励んで下さい。

◆発展性に関するアドバイス

・「この森林をどのような姿にしたいのか」というビジョンの共有が大切であるとの認識を持ち、森林所有者に対する説明や、森林技術者への指示明確化のため、最初に残す木を決定し、それをマーキングする選木方法の採用など、今後も引き続き森林づくりに関する様々な工夫を重ねて下さい。
・健全で豊かな森林づくりを目指している以上、下流域の水資源涵養やCO_2固定などに自らの森林づくりが貢献していることをアピールできることが必要です。このため、日頃から表層土壌の有無と林内からの降雨等流出状況の関係に注視するなど、森林を十分に観察・把握するよう務めて下さい。

◆総括に関するアドバイス

・低コスト化のためには小規模な所有森林を団地としてまとめていく必要性がありますが、一般的に個々の所有者が抱く森林への想いは異なるはずです。所有者の森林に対する期待には、木材生産だけではなく環境保全やレクリエーションなども含まれます。このことを常に意識し、施業集約化の段階から森林づくりに取り組んで下さい。
・森林資源は利用期を迎えているとともに、国における林政改革では、10年後の木材自給率50%以上を目標に、森林・林業政策に関する改革が検討されています。この10年がチャンスです。所有者の意識を森林に引きつけておくためにも、定期的に収入が得られる森林づくりを続けて下さい。
・森林が持つ様々な機能を林業経営を通じて如何に発揮させていくのかという視点を持つことが大切です。皆さんは林業のプロフェッショナルであることから、森林所有者や林業関係者のみならず、地域に暮らす人々が納得できるような森林づくりの実践を期待します。

◆フォローアップ委員会の開催状況　　平成22年12月20日

日　　時：　平成22年10月27日（水）
場　　所：　飛騨市古川町寺地・黒内地内
参加委員：　三島 喜八郎　岐阜県森林組合連合会　代表理事副会長
　　篠田 成郎　　岐阜大学総合情報メディアセンター　教授

対　　象：　飛騨市森林組合

プロジェクトの概要説明

木材生産にとっても適当と評価された林床の状況

選木技術の向上を求められた長伐期大径化に不適当な残存木（樹冠長・枝張り）

排水方法の改善を求められた横断排水（暗渠）

表層土と下層植生の現況から選木・間伐方針をフォローアップ

伐採対象にすべきと指摘された立木（曲がり木）

現地を踏査しつつ路網配置に関するアドバイス

目標とする道づくりの考え方について質疑応答

H22健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会
委員長　　三島　喜八郎